

資料番号 5

令和5年7月19日
課名 環境県民局高等教育担当
担当者 担当課長 徳田
内線 2751



広島県公立大学法人

睿啓大学

EIKEI UNIVERSITY OF HIROSHIMA

ソーシャルシステムデザイン学部
ソーシャルシステムデザイン学科

2024

叡啓でしかできない
私の挑戦が始まる。

2
戦略性

デジタルリテラシーを基盤に
論理的思考力などを用いて
統合的な解決策を
戦略的に立案する力

1
先見性

幅広い教養を基盤とする
複眼的・多角的視野で
本質的な課題を
発見する力

3
グローバル・
コラボレーション力

多様性を尊重し、
異なる文化・価値観などを
有する他者と協働する力

叡啓大学で身につく
5つの
コンピテンシー
(資質・能力)

5
自己研鑽力

生涯にわたって
学び続ける姿勢を通じて
自己を高める力

4
実行力

リーダーシップをもって
主体的・積極的に
チャレンジし、
最後までやり抜く力

5つのコンピテンシーについて、詳しくはこちらから >>>



学長メッセージ

私たちは現在未曾有の体験をしつつあります。民主主義への信頼を揺るがすような侵略や、パンデミックによって変化した私たちの生活は元に戻ることはないでしょう。一方で製造業に代表される有形資産経済からプラットフォームに代表される無形資産経済への重心の移行は着実に進んでいます。大学は高度な職業に就くための高度な専門知識を身につける場です。しかし従来の専門領域の知識を深く掘り下げる教育は大きく変化している社会の要求に合わなくなっているように見えます。米国では求人があるにもかかわらず就職できない学生が増加していることが問題になっていますし、日本でも就職後3年で3分の1が離職する傾向が続いています。民主主義やグローバル化といった社会の基盤原理や経済原理が揺らいでいる中で重要なのは私たちの社会を俯瞰的にとらえるための知識と、夢を描き形に紡ぐ力です。若者たちには、先行きが不透明な社会に流されるのではなく、新しい社会を描き実現していく力、コンピテンシーを身につけてもらいます。叡啓大学は社会を前向きに変えるチェンジ・メーカーを育成する22世紀型大学です。皆さんがコンピテンシーを身につけ新たな社会を牽引することを夢見ています。



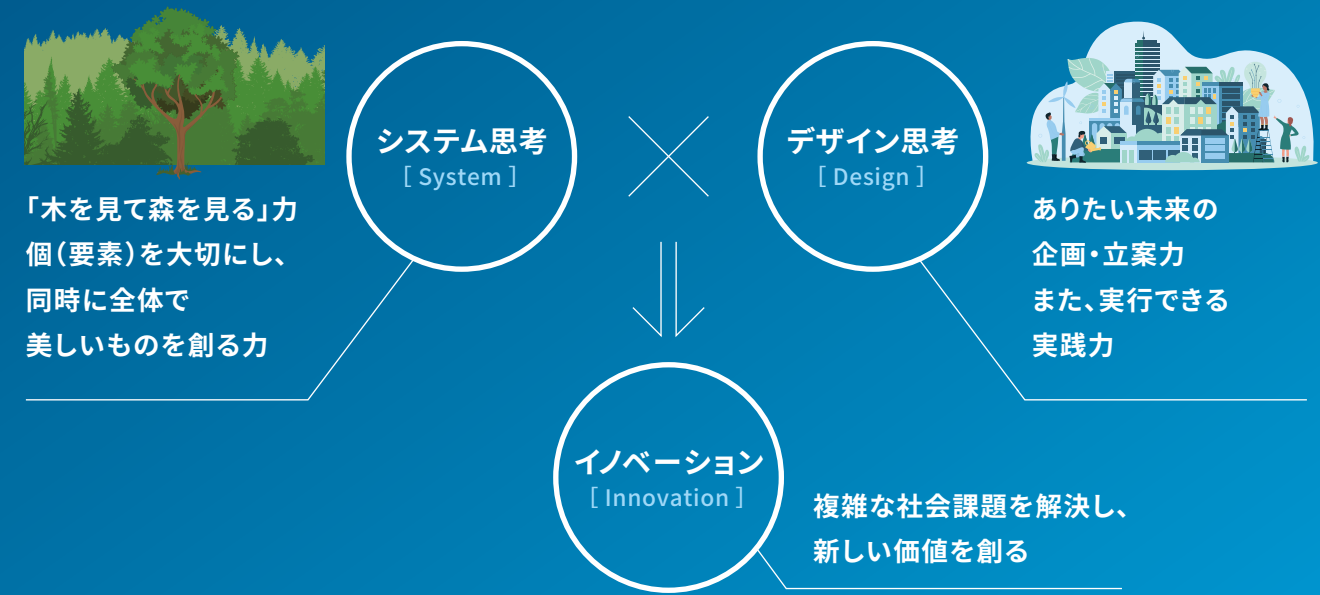
学長
有信 睦弘
ARINOBU Mutsuhiro

社会の課題を発見し、 新たな価値をデザインする。

ソーシャルシステムデザイン学部 ソーシャルシステムデザイン学科

Social System Design

社会で問いを設定し、解答を自ら探究するための方法論



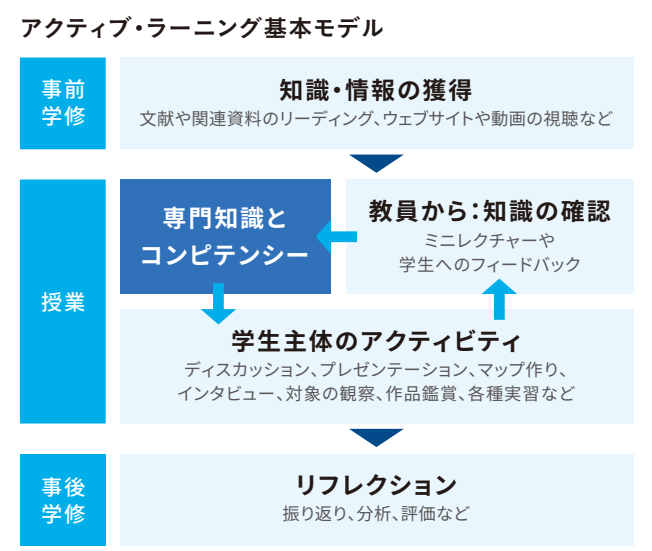
学部の理念

「自らが将来のありたい社会を創ること」、そのために、「自らが課題を発見し、解決策を立案し、他者と協働しながら、リーダーシップを発揮し、実行することを通じて、新たな社会価値を生み出すこと」を理念としています。

学びの概要

実践英語によるグローバルコミュニケーション能力とデジタルスキル、論理的思考力、デザイン思考・システム思考の方法論を身につけます。文理を超越したリベラルアーツ科目の履修と、実社会の課題解決に取り組む課題解決演習(PBL)、ボランティアやインターンシップなど海外を含む「体験・実践プログラム」を通じた実践的な教育を経験します。それらを通じて、自ら解決すべき課題を設定し、解決策の提案を行う「卒業プロジェクト」において知識・能力の統合を図ります。

アクティブ・ラーニング すべての科目と授業で学生参加を促す授業スタイル



少人数教育

1クラス **25人**

1クラス25人の少人数教育
学生一人ひとりにより応じた指導を行うため、原則として1クラス25人程度で授業を実施します。
※英語集中プログラムは1クラス16人程度です。

主体的に学べる

授業時間 **100分**

主体的に学べる100分授業
教員による一方的な講義は最大で20%程度を目安とします。学生同士の対話やグループディスカッション、質疑応答の時間を多く確保します。

集中して取り組める

連続授業 **2コマ**

2コマ連続授業だから集中して取り組める
1コマ100分の授業を2コマ連続で行うことで、同時期に並行して履修する科目が少なくなり、それぞれの授業に集中して取り組むことができます。

アクティブ・ラーニングについて、詳しくはこちらから >>>

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

「修得」と「実践」で構成するカリキュラム体系
ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)で定められたコンピテンシー(資質・能力)が身につくよう、「リベラルアーツ科目」や「基本ツール科目」、「実践英語」による知識・スキルの「修得」と、「課題解決演習」や「体験・実践プログラム」による「実践」を往復したうえで、「卒業プロジェクト」に取り組みます。自分の課題意識や学修状況に応じた履修を重ねることで、コンピテンシーの獲得と学位の取得を目指します。



日本初の「人と社会を前向きに変えるリーダー(チェンジ・リーダー)」を育てる22世紀型大学です。

いまある職業と学問が半分消えていく時代に、学びが「できる」ではなく、学びが「創れる」人、仕事が「できる」ではなく、仕事が「創れる」人が求められています。本学はその声に、ソーシャルシステムデザインの学修と実践による人財育成で応えます。ソーシャルシステムデザインは、複雑で「正解」のない社会課題に対して、問いを設定し(クリティカル思考)、解答を自ら探究するための方法論です。地球善・世界善の幸せ(ウェルビーイング)のために、「鳥の目・虫の目」(システム思考)をもち、知の統合による斬新な変革のための企画・立案・実行(デザイン思考)を、地域からグローバルまでを場に、生涯やり抜く力(生涯探究する力)を涵養します。「いまある社会を知る」よりも「これから社会を前向きに変える」ソーシャル・アントレプレナーシップ(社会起業家精神)を身につけたい。そんな熱い思いをもつ人に応える学部です。ぜひいらしてください。



学部長
保井 俊之
YASUI Toshiyuki

【経歴】1985年東京大学卒、財務省および金融庁等の主要ポストやパリ、インド並びにワシントンDCの国際機関や在外公館等に勤務したのち、地域経済活性化支援機構常務取締役、国際開発金融機関IDBの日本ほか5か国代表理事等を歴任。慶應義塾大学大学院SDM 特別招聘教授等を2008年から兼務。米国PMI認定PMP、PMI日本支部理事、日本創造学会評議員、地域活性化学会理事兼学会誌編集委員長、ウェルビーイング学会監事。

国際教養力

グローバル社会の中で活躍できる
教養力を身につける



A STUDENT'S VOICE

充実した学びで養う 柔軟な思考と課題解決の力

ソーシャルシステムデザイン学科 2年
飯田 夏 IIDA Natsu
山口県(山口県立防府高等学校)出身

「心理学概論」では、なんとなく行っている「日々の選択」が、どのような思考で成り立っているかを知ることができました。また、「デザイン思考・システム思考」では、小学校や市役所でインタビューを行い、実際にある課題を明確化しながら、解決するための思考力を実践的に養いました。こうした授業の中で私は、SDGsの目標にもある「質の高い教育をみんなに」が、どの課題においても根本的解決のために必要であることを理解しました。教育環境の整備は、その他の課題解決にも大きく関連しています。私自身、大学で得た学びが将来、様々な場面で役立てられることにとても期待しています。



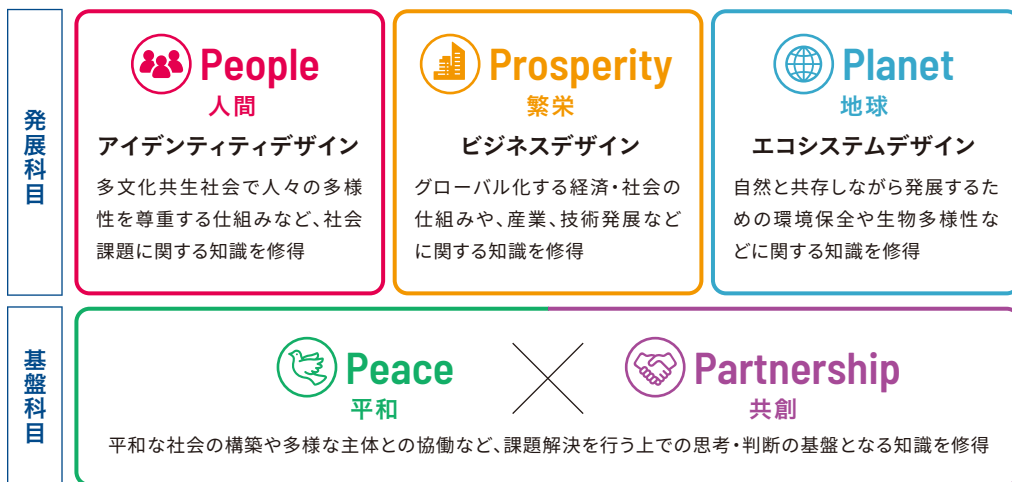
SDGsを意識したリベラルアーツ(一般教養科目)

SDGs(Sustainable Development Goals)は国連総会で2015年に採択された、持続可能な開発のための国際目標です。本学は実社会における課題に対して、持続可能な世界の実現に貢献することを念頭に、SDGsの17のゴールの方向を見据えながら、統合的な解決策の立案に寄与する人材の育成を目指します。社会課題を見る際は、SDGsの17のゴールを国連が分類した5つのP(Peace 平和、Partnership 共創、People 人間、Prosperity 繁栄、Planet 地球)を軸として設定し、様々な学問分野を横断的に学修します。



学びの軸とする5つのP

Peace(平和)とPartnership(共創)は、SDGsの17すべてのゴールに共通する方法論と位置づけ、学生全員が「基盤科目」として履修します。2年次からPeople(人間)、Prosperity(繁栄)、Planet(地球)をより具体的な課題領域「発展科目」として学びます。「発展科目」では、3つのPのうち自ら選んだ1つを中心に学びながら、興味関心に応じて他の領域の科目を履修することもできます。



文理の枠を越え課題解決の基盤となる知識を修得



具体的な科目、カリキュラムはP11-12でCheck!

リベラルアーツについて、詳しくはこちらから >>>

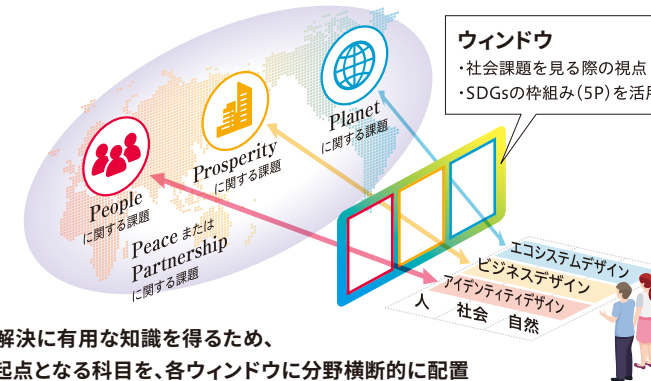


ウィンドウの設定による学修

SDGsの17のゴールは、実社会における課題に対して、国際社会全体の持続可能な開発目標として設定されています。このことを念頭に置きながら、複眼的かつ多角的で、グローバルな視点から将来を見通すことができる力を養います。各自の興味関心に応じて、課題を見る際の視点となる「ウィンドウ」を選択します。各ウィンドウのテーマに有用な知識が修得できるよう、カリキュラムが構成されています。

「ウィンドウ」のイメージ

ソーシャルシステムデザイン → 自ら創る「ありたい社会像」



ICT・データサイエンス

ICTやプログラミングの基礎や活用方法(デジタルリテラシー)などを理解し、課題解決や事業立案などのツールとして活用します。また、データを収集・分析して判断材料とする手法を修得し、実社会の課題に対し統合的な解決策を立案する戦略性の育成を図ります。ICTを活用する際に重要な情報処理の学修機会も設けています。



[例] Webサイトやアプリの作成技法、分析結果を効果的に活用するための技法、IoTやAI、データサイエンスを活用する手法など

思考系

課題解決に必要な、基本的な思考のスキルである論理的思考力を養います。実社会における課題解決プロセスで必要となる、プロジェクトを進める手法や他者と協働して議論を促進し合意形成を図る方法などのスキルを修得し、実社会の課題に対し統合的な解決策を立案する戦略性を育成します。



[例] ロジカルシンキング、デザイン思考・システム思考、プロジェクトマネジメント、ファンリテーションなど

デジタルスキルや思考力の向上について、詳しくはこちらから >>>



実践力

社会を変える
実践力を身につける



A STUDENT'S VOICE

どんな環境でも対応できる
多様な技法とスキルを修得

ソーシャルシステムデザイン学科 3年
豊崎 花 TOYOSAKI Hana
広島県(広島県立広島高等学校)出身

約1年間に渡って、中南米地域との国際的な事業を行う団体でのインターンシップを継続しています。事業が立ち上がっていくところから、実際にそれが形になるまで関わることができ、貴重な経験となりました。インターンシップを通して、“仕事をする”ことへの責任感をはじめ、スキルが足りない自分に何ができるかを積極的に探して創っていく力が身につきました。また、地方創生と国際的な協働を掛け合わせた事業に関わったことで、海外の視点から日本の地場産業を見つめ直すこともできました。今後は、海外でインターンシップを行い、日本の文化や産業の発信に貢献したいと思っています。



実社会のリアルな課題に挑む課題解決演習(PBL)

企業や自治体が実際に直面しているリアルな課題に対して、学生は4名程度のチームを組み、事前学修やグループワーク、現地調査等を通じて本質的な課題を発見し、解決策を検討するプロセスを経験する演習です。1年次、入学してすぐに「ソーシャルシステムデザイン入門」および「課題解決入門」を必修で履修し、自分に足りない知識やスキルを自覚します。2・3年次では、企業などから提供された課題の原因を追究し、解決策の提案までを行う演習に複数回取り組み、課題発見・解決力や他者と協働する力、やり抜く力などを養います。

課題解決演習(PBL)の流れ



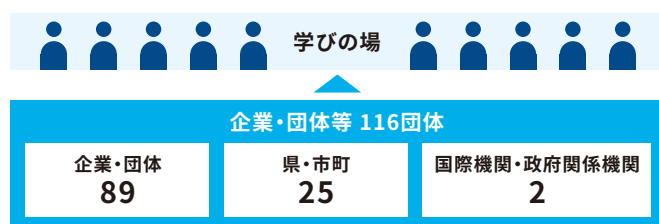
課題解決演習(PBL)のテーマ例

事業タイプ	課題タイトル(例)
民間企業(食品)	海外展開に向けた市場環境調査と消費者ニーズ把握
民間企業(IT)	新たなITサービスのアイデア創出
民間企業(交通)	データを活用したまちづくりサービス開発
民間企業(保険)	高齢ドライバーの事故を減らす取り組みの提言
自治体(市町)	少子高齢化の進行に伴う伝統文化の継承

社会全体が実践的なキャンパス 企業・自治体などの課題から学ぶ

実社会で生じている課題を教育に積極的に取り入れていくことができるよう、企業やNPO、国際機関、地方公共団体など様々な主体と連携するプラットフォーム(叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会)を本学は構築しています。企業や自治体の課題が演習テーマとして設定され、学生は解決へのプロセスを実践的に学びます。自ら考え行動に移し、答えを導き出す基礎を養えるのも、叡啓大学ならではの学びです。プラットフォームを構成する企業・団体等は、さらに増えていく予定です。

叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会



2023年6月現在

課題解決演習(PBL)取り組み事例

テーマ | 旅行会社の店舗の「価値」を考える

クライアント:株式会社エイチ・アイ・エス中四国事業部様(2022・秋Q)
クライアント様のサブテーマ「新たな人の流れが、店舗に集まるには」を軸に、HIS広島本店の観察から「旅行目的で来店しないと居心地が悪く、ふらっと入りづらい」という仮説を立てました。聞き取り調査を経てレバレッジポイントを設定しました。



※レバレッジポイント:何らかの解決策を考える起点

テーマ | コワーキングスペース thirdの可能性を探りたい

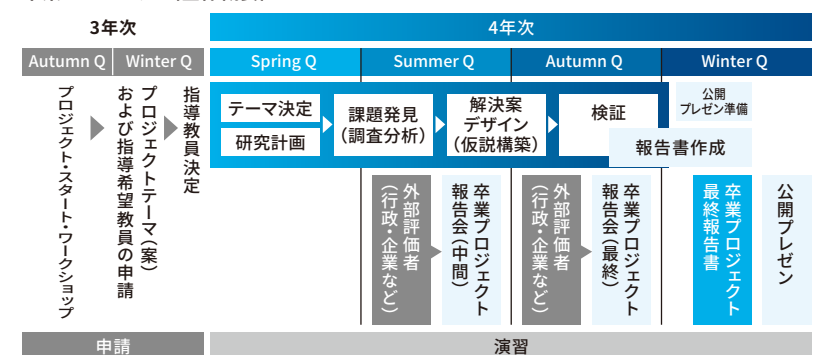
クライアント:東広島市様、コワーキングスペース third様(2022・秋Q)
東広島市安芸津町にあるコワーキングスペース「third」の運営者には「情報の駅として、新たな顧客を増やしたい」という願いがあります。フィールドワークを経て、「東広島市や教育機関がthirdと連携する機会が少ない」とし、自分たちの調査結果の確認を進め、レバレッジポイントを再検討しました。



卒業プロジェクト

大学での学びの集大成として、学生自らがテーマを設定して、課題の明確化と解決策を導き出すことを目指します。個別の卒業プロジェクトテーマに関する課題研究を、教員が伴走する演習形式で実施。中間・最終の2度行われる報告会には、外部評価者として企業・行政などのステークホルダーを招き、それぞれの課題研究に対して、新規性、実現可能性などの観点からフィードバックをもらいます。それを踏まえて報告書をまとめ、公開プレゼンテーションの場で成果を発表します。

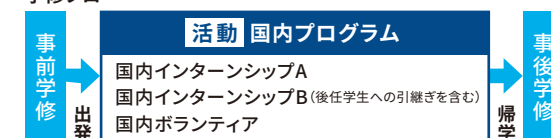
卒業プロジェクト(全体概要)



体験・実践プログラム(国内) 現場体験を通じて企業や地域への理解を深める

叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会などと連携し、インターンシップやボランティア活動などに取り組むプログラムです。学生は海外で活動することを必須とし、海外プログラムと合わせて4単位以上(2科目以上)を履修します。担当教員の指導のもと、事前学修では自身が成長させたいスキルの明確化を、実習中は受入先担当者の指導を受けつつ主体的で実践的な学びを、事後学修では受入先担当者からの評価を踏まえた学びの振り返りを行い、プログラム活動の充実と学びの深化を図ります。

学修フロー



国内プログラム(2年次または3年次)

科目	内容	期間
国内インターンシップA	県内企業、市町や県の行政機関、国際機関などにおける日常業務の一端を担うことにより、積極的に社会への関心を高め、仕事に対する理解を深めます。国内インターンシップBは、学生同士による引継ぎを想定したプログラムです。前任の学生から業務手法や成果を引き継ぎ、発展させ、また後任となる学生に業務の内容を引き継ぐことによって、業務への責任感と理解をより深め、新たな学びや気づきが生み出されることが期待されます。	2週間から数か月程度 ※国内インターンシップBは4週間以上
国内インターンシップB		
国内ボランティア	非営利組織の活動支援を行っている団体の協力を得て、地域おこしや教育、外国人観光客対応などの活動に関わることで、自発的な社会貢献の経験を積みます。	

※インターンシップについては、PBLと同様に、叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会参加団体が主な受入機関となります。

課題解決演習について、詳しくはこちらから >>>



体験・実践プログラムについて、詳しくはこちらから >>>



実践英語力

グローバルに活躍できる
英語力を身につける



A STUDENT'S VOICE

英語に囲まれた刺激的な毎日
世界の広がりを感じて実感

ソーシャルシステムデザイン学科 2年
栗原 隆太郎 KURIHARA Ryutaro
熊本県(熊本学園大学付属高等学校)出身

自分が得意とする英語をさらに伸ばすため、その環境が整っていると感じた叡啓大学への進学を決めました。国際学生寮では授業外でも国際的な交流ができる点が魅力的です。入学後、半年間行われる英語集中プログラムは、とても有効的な授業です。僕自身、新しい言い回しや会話にふれる刺激的な日々を過ごし、今では冗談を混ぜながら、伝えたいことをスラスラと言語化できるまでに成長しました。これから経験する留学では、ビジネスでも使える語彙力を身につけたいと思っています。日常生活においてもさらなる上達を目指し、世界をどんどん広げたいですね。



英語シャワーに触れる日常で「グローバル」な人材に

コミュニケーション力を駆使して異なる文化・価値観などを有する人と協働し、グローバルに活躍できる力を養うため、実践的な英語を学修します。英語で授業を受けられるレベルの英語力の修得を目指すとともに、海外から積極的に留学生を受け入れ、キャンパスのグローバル化を推進しています。

英語集中プログラム

6か月



英語で授業を受けられるレベルに達するよう、1年次の最初の半年間で「Intensive English Program(英語集中プログラム)」を実施します。少人数・習熟度別(初級・中級・上級)にクラスを編成し、英語のみを使用することで、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング、プレゼンテーション力を鍛えます。

英語での単位修得

62単位以上



卒業に必要な124単位のうち、62単位以上は英語で単位を修得することが要件となります。一部の科目(留学生を対象とした日本語の授業)を除き、同一科目を英語と日本語両方で開講するため、すべての科目を英語により履修し卒業することができます。

留学生

4人に1人



1学年100人のうちの20人程度の留学生に加え、交換留学などにより滞る海外大学の学生を含めると4人に1人は外国人学生となるよう、キャンパスのグローバル化を推進しています。様々な文化的背景や価値観を持つ留学生と日頃から英語でコミュニケーションを取ることで、多様性を尊重する国際感覚を身につけます。

スタンフォード大学SPICEと連携授業

スタンフォード大学SPICEと、県立広島大学大学院経営管理研究科(HBMS)との3者共同で2022年3月から連携授業(起業家教育プログラム)を開講しています。ビジネスの現場で様々な課題に取り組んでいるHBMSの学生(社会人)と一緒に、互いに刺激あいなが課題解決に取り組んでいます。2023年度秋からは、スタンフォード大学SPICEと本学が連携して英語による授業をスタートします。

【スタンフォード大学SPICEとは】

正式名称は「Stanford Program on International and Cross-Cultural Education(SPICE)(日本語では「スタンフォード大学国際相互文化教育プログラム)」で、スタンフォード大学国際研究所FSIの部局。1976年の開設以来、初等教育から高等教育までのカリキュラム開発、教員の専門性開発、遠隔学習コースの開発を行っており、Stanford e-Japan活動をはじめとする日本に向けたプログラムを提供している。

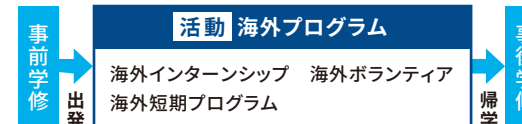
実践英語について、詳しくはこちらから >>>



体験・実践プログラム(海外)

異文化への関心を高め、多様性を学ぶ

海外協力機関などと連携し、インターンシップやボランティア活動・留学などに取り組むプログラムです。学生は一度は海外で活動することを必須とし、国内プログラムと合わせて4単位以上(2科目以上)を履修します。担当教員の指導のもと、事前学修、事後学修を組み込んだカリキュラムで、プログラム活動の充実と学びの深化を図ります。



海外プログラム(2年次または3年次)

科目	内容	期間
海外インターンシップ	海外でのインターンシップを紹介している民間団体の協力を得て、企業などでビジネスの実務を経験することにより、異文化への関心を高め、交渉能力、協働する能力を高めます。	2週間から数か月程度
海外ボランティア	海外でのボランティアを紹介している団体の協力を得て、主に開発途上国で活動中のNGOなどにおいて経験します。社会背景の異なる環境下での体験を通して、現地の支援活動に貢献しながら、積極的に異文化への関心を高め、多様性への理解を深めます。	
海外短期プログラム	学外協力機関が提携する大学や、本学の国際交流協定校のプログラムの中から選択し、サマースクールなどの短期プログラムに参加します。	

※5万円/月の奨学金が付与されます。

体験・実践プログラムについて、詳しくはこちらから >>>



留学 新たな環境下で自分を磨く

様々な課題を自ら乗り越える経験を積むこと、困難に直面しても最後までやり抜くことを通じて物事を実行する力をつけること、多様な文化や価値観を有する他者と協働する力をつけることを目的としています。留学は本学と国際交流協定を結んだ大学への留学「交換留学」「派遣留学」と、協力機関を通じて留学先を選ぶ「認定留学」の3通りの留学方法があります。「交換留学」の学生には5万円/月の奨学金が給付されます。

留学の種類

	交換留学	派遣留学	認定留学
窓口	本学	本学	協力機関 など
期間	3か月～1年		
留学先の授業料	不要	必要	
その他必要経費	ビザ申請料、渡航費、保険料、生活費(住居費・食費・通信費) など		
単位認定	本学と単位互換可能な科目を履修し、単位認定された場合に単位付与		
出発時期	2年次以降		
行き先	協定校14か国・地域20大学		10か国・地域46大学 など

※本学における学事暦上3クォーター以上留学する場合、卒業に4年以上を要する可能性があります。
※上記内容は予告なく変更となる場合があります。

国際交流協定校一覧

地域	国/地域	大学
アジア	マレーシア	INTI国際ナショナル大学
	バングラデシュ	ダフオディール国際大学
	韓国	忠南大学校
	台湾	台北市立大学 義守大学 亞洲大学
	タイ	マヒドン大学国際ナショナルカレッジ スィーパトゥム大学
中東	トルコ	アルディンバス大学
	モロッコ	アル・アハワイン大学
欧州	チェコ	メンデル大学ブルノ
	フィンランド	フィンランド南東部応用科学大学 カレリア応用科学大学
	イギリス	ノーサンブトン大学
北米	リトアニア	カウナス工科大学
	フランス	情報先端技術学校(EPITA)
中南米	アメリカ	ヒューストン大学ビクトリア校 ハワイ大学マノア校
	ブラジル	ハワイ大学ヒロ校 パウリスタ大学

世界14か国の国や地域の20大学と、国際交流協定を締結しています。(2023年6月現在)
交換留学先は随時拡大していきます。

留学について、詳しくはこちらから >>>



カリキュラム | 「修得」と「実践」で構成するカリキュラム体系

		1年次	2年次	3年次	4年次						
実践	課題解決演習(PBL)	●課題解決入門	企業などの多様な主体と連携し、実践的な課題発見・解決演習に取り組む ●課題解決演習IA ●課題解決演習IB	●課題解決演習II	卒業プロジェクト						
	体験・実践プログラム	学生各自の興味・関心に ■国内プログラム ●海外プログラム	応じて、卒業までに最低2回、うち1回は海外プログラムに取り組む ●国内ボランティア ●国内インターンシップA ●国内インターンシップB ●海外ボランティア ●海外インターンシップ ●海外短期プログラム								
基本ツール科目	ICT・データサイエンス	■入門科目 基礎的なICT活用技術やプログラミングのスキルを養う ●ICT入門 ●データサイエンス概論A ●プログラミング入門	■基盤科目 より複雑な課題に対応できるスキルを養う ●ウェブプログラミングとアプリ開発 ●IoT利用による問題解決 ●データ分析と統計モデリング ●情報発信技法 ●データサイエンス概論B ●データ可視化法 ●データサイエンス実践論 ●AIビジネス活用論								
	思考系	■入門科目 課題解決に必要な基本的な思考のスキルを養う ●ロジカルシンキング ●デザイン思考・システム思考	■基盤科目 プロジェクトを進める手法や議論を促進し合意形成を図る方法など、他者と協働して課題解決に取り組む上で必要となるスキルのほか、論理的に文章を構成し表現するスキルを養う ●ファシリテーション ●プロジェクトマネジメント ●日本語アカデミックライティング								
修得	リベラルアーツ科目	■入門科目 人の多様性、社会の仕組み、自然との共存などに関する基礎的理解を養成	■基盤科目 平和な社会の構築や、多様な主体との協働など、課題解決を行う上での思考・判断の基礎となる知識を修得	■発展科目 縦軸として(人)(社会)(自然)を設定し、それらを横断する軸としてウィンドウを設定。学生はいずれかのウィンドウを選択して履修するが、興味関心やプロジェクトの進行状況に応じて、他のウィンドウに関わる科目も履修できる	●持続可能な世界と私たち〜SDGsの達成に向けて〜						
	People 人間	●ソーシャルシステムデザイン入門	●入門科目 (選択科目) ●数学入門 ●健康学入門	<table border="1"> <tr> <th>(人)</th> <th>(社会)</th> <th>(自然)</th> </tr> <tr> <td>●哲学・倫理学 ●多文化共生社会論 ●メディア論 ●日本文化論 ●異文化論 ●科学哲学概論</td> <td>●公共経営論 ●地域協働論</td> <td>●認知科学概論 ●ヘルスケアサービス論</td> </tr> </table>		(人)	(社会)	(自然)	●哲学・倫理学 ●多文化共生社会論 ●メディア論 ●日本文化論 ●異文化論 ●科学哲学概論	●公共経営論 ●地域協働論	●認知科学概論 ●ヘルスケアサービス論
	(人)	(社会)	(自然)								
	●哲学・倫理学 ●多文化共生社会論 ●メディア論 ●日本文化論 ●異文化論 ●科学哲学概論	●公共経営論 ●地域協働論	●認知科学概論 ●ヘルスケアサービス論								
Prosperity 繁栄	●学生が課題意識を醸成し、学修意欲を喚起	●経済学入門 ●法的思考	<table border="1"> <tr> <th>(人)</th> <th>(社会)</th> <th>(自然)</th> </tr> <tr> <td>●心理学概論 ●宗教と歴史 ●平和論</td> <td>●経営学概論 ●国際協力・安全保障概論 ●社会学概論</td> <td>●生命倫理学概論 ●人工知能概論 ●数学的思考法</td> </tr> </table>	(人)	(社会)	(自然)	●心理学概論 ●宗教と歴史 ●平和論	●経営学概論 ●国際協力・安全保障概論 ●社会学概論	●生命倫理学概論 ●人工知能概論 ●数学的思考法		
(人)	(社会)	(自然)									
●心理学概論 ●宗教と歴史 ●平和論	●経営学概論 ●国際協力・安全保障概論 ●社会学概論	●生命倫理学概論 ●人工知能概論 ●数学的思考法									
Planet 地球		●環境学入門 ●科学技術倫理入門	<table border="1"> <tr> <th>(人)</th> <th>(社会)</th> <th>(自然)</th> </tr> <tr> <td>●哲学・倫理学 ●多文化共生社会論 ●メディア論 ●日本文化論 ●異文化論 ●科学哲学概論</td> <td>●経営戦略・組織論 ●マーケティング論 ●ファイナンス論 ●社会起業家論 ●社会経済システム論 ●産業・ビジネスモデル論</td> <td>●自然災害論 ●都市環境論 ●環境工学 ●生物多様性論 ●地球環境論 ●生態学</td> </tr> </table>	(人)	(社会)	(自然)	●哲学・倫理学 ●多文化共生社会論 ●メディア論 ●日本文化論 ●異文化論 ●科学哲学概論	●経営戦略・組織論 ●マーケティング論 ●ファイナンス論 ●社会起業家論 ●社会経済システム論 ●産業・ビジネスモデル論	●自然災害論 ●都市環境論 ●環境工学 ●生物多様性論 ●地球環境論 ●生態学		
(人)	(社会)	(自然)									
●哲学・倫理学 ●多文化共生社会論 ●メディア論 ●日本文化論 ●異文化論 ●科学哲学概論	●経営戦略・組織論 ●マーケティング論 ●ファイナンス論 ●社会起業家論 ●社会経済システム論 ●産業・ビジネスモデル論	●自然災害論 ●都市環境論 ●環境工学 ●生物多様性論 ●地球環境論 ●生態学									
実践英語	■入門科目 IEP(英語集中プログラム) 授業を英語で受けられるレベルの英語力を養う ●リスニング英語I ●リスニング英語II ●ライティング英語I ●ライティング英語II ●リーディング英語I ●リーディング英語II ●スピーキング英語I ●スピーキング英語II ●プレゼンテーション英語基礎I ●プレゼンテーション英語基礎II	■基盤科目 アカデミックな英語力や時事英語など、実践的な英語力を磨く ●アカデミックリーディング ●アカデミックライティング ●カレントイングリッシュ ●プレゼンテーションイングリッシュ ●コミュニカティブイングリッシュ									
日本語(留学生科目)		●日本語I ●日本語II ●日本語III ●日本語IV ●日本語V ●日本語VI									


充実した教育プログラムと学修サポート

ジャンプスタートワークショップ
学生は入学直後に、およそ1週間かけてジャンプスタートワークショップを受講します。学生が入学までの生活や学修を振り返り、将来のキャリアプランやライフプランについて考える機会とします。また、このワークショップで集中講義として実施する「ソーシャルシステムデザイン入門」や「課題解決入門」で、社会課題に対する当事者意識を醸成します。

ポート(港)による学生支援
学生40人(1学年10人×4学年)程度を専門分野の異なる教員2~3人が担任する「ポート」を設け、学生を支援しています。教員2人の研究室と学生が滞る部屋を隣接配置することで、学生が日常的に教員とコミュニケーションをとることができます。学修計画の立て方や履修科目の選択、学修方法についての指導・助言を受けやすい環境です。

完全クォーター制
1年を4学期に完全に分離するクォーター制を導入。自らの履修計画に応じて海外留学やインターンシップ、ボランティアに取り組みやすくなっています。

カリキュラムについて、詳しくはこちらから >>>



教員紹介

多彩なキャリアを持つ教員陣

本学には、社会人経験を経て学問の道へ進んだ教員や、専門分野で様々な経験をもつ教員が揃っています。“変化の激しい時代を生き抜く学び”とは何か。教員自身の経験や研究を踏まえて学生の皆さんに伝えるだけでなく、共に考え、実践できる場を準備します。

教員について、詳しくはこちらから >>>



教授 | 英語
BURROWS Christian バロウス クリスチャン

The Intensive English Program (IEP) offers students to develop a practical ability in all 4 language skills. This is intended as a platform to be able to take part in lectures and seminar conducted in English. It offers an opportunity for students to build on the knowledge and ability acquired up to high school. If you are motivated to improve your language ability, come and join our student-centered program.



准教授 | 言語学
HIGGINBOTHAM George ヒギンボサム ジョージ

The Intensive English Program will push your language skills so that after six months you will be confident to take your Social System Design courses through English. In the reading classes, for example, you will read a lot of easy books (extensive reading) to increase your reading speed and also read academic texts (intensive reading).



准教授 | 英語教育学、教育理論
KASPAREK Nick カスパレック ニック

English has become a vital, diverse, and dynamic global language for communicating and co-constructing ideas across space and time. As such, active English study develops students' capacity to learn from and join global academic conversations. Moreover, with language mediating our experience of our inner and external worlds, new potentialities for thought, action, and learning can emerge for oneself and others.



教授 | 自然科学
LASSALLE Michael W. ラサール マイケル

Our world is undergoing rapid change, with big issues facing us now and in the future. The global temperature is increasing, while biodiversity is decreasing, unknown diseases are emerging, and wars are being fought again. How can you become a problem-solver? Having a background in science and technology will provide you with the creative knowledge to overcome the economic, social, and environmental challenges of the future. Join me on this journey and see how rewarding, fun, and engaging natural science can be.



准教授 | 国際法
長岡 さくら NAGAOKA Sakura

我々が思っている以上に、法は我々の生活を保護しています。そして、現在では多様性を尊重し、他者と協働することが求められています。叡啓大学にて、「法」という素材を用いて、新たな課題を発見し、その解決に取り組んでみませんか？



准教授 | 心理学、社会心理学
中島 基宏 NAKAJIMA Motohiro

どのような時に自分の考えが周囲から影響を受けるのか、またどのような時に自分の言動が周囲にポジティブな影響をもたらすのか、さらに人が人と良好な関係を築く上で大切なことは何か、皆さんとともに議論し学んでいきたいと思っています。



准教授 | ファイナンス
小野 浩二 ONO Koji

国公上級甲種(経済)合格、総理府任官。英国外務省奨学生としてロンドン大学インペリアルカレッジ留学、MSc、DIC両学位取得。政府系法人研究部長、国際会議議長、大学教授、終身保障信託開発者。日本証券アナリスト協会認定アナリスト(CMA)。FP1級、英検1級、宅建等有資格。



教授 | 環境化学工学
下ヶ橋 雅樹 SAGEHASHI Masaki

私たちの生活に欠かせない水を主な対象として、気候変動やプラスチック排出の環境影響をコンピュータ上に再現するシミュレーションを研究しています。計算結果を通じて、持続可能な環境のために何をなすべきかを議論しましょう！



教授 | 文学
PETKOVA Galia ペトコヴァ ガリア

大学時代は、人生で一番楽しい時期です。それをどう活かすかは、すべてあなた次第です。この期間を上手く使えば、確かな知識と自信を得ることができます。特に、批判的に考えることと、人間の行動や社会を分析し理解することを学びましょう。



特任教授 | 環境経済学
石川 雅紀 ISHIKAWA Masanobu

私は学部3年生から環境問題に取り組み、東京水産大学、神戸大学を経て本学で経済学を担当しています。神戸大学では学生中心のNPOごみじゃぱんを創立しました。プラスチックごみ問題、食品ロス問題を学生と一緒に解決したいと思います。



教授 | 調査デザイン
川瀬 真紀 KAWASE Maki

担当科目「課題解決演習」では、連携先からの課題についてフィールド調査を進め、解決の糸口を考えます。学生の皆さんが課題に真摯に向き合う態度を育て合いなから、総合的な実践力を身につけ、成長される様子に励まされています。



教授 | データサイエンス、エネルギー管理
河村 勉 KAWAMURA Tsutomu

データサイエンスやAIなどのデジタル技術に関する講義を行っています。また、地球温暖化対策として、AIを用いて工場やビル、住宅などのエネルギーシステム(蓄電池やヒートポンプなど)の運用効率を高める技術の研究に取り組んでいます。



准教授 | 国際協力、ジェンダー
瀬古 素子 SEKO Motoko

2050年の地球では人口の25%がアフリカ大陸に居り、消費も労働力も社会課題も、世界の中心が動いていきます。若者よ、井戸を出て大海を見よう。世界を知りともに歩むための教養と経験に加え、多文化共生な生き方を叡啓で身につけましょう。



教授 | 地域活性化、経営学
早田 由伸 SODA Yoshinobu

環境変化が激しく、大きな価値転換が起きている現在は、皆さんにとって大きなチャンスです。それを活かすためには「ソーシャルシステムデザイン」の考え方を修得し、実践することが有効です。ぜひ一緒に未来をデザインしていきましょう！



准教授 | 文化人類学
田口 陽子 TAGUCHI Yoko

私たちが当たり前だと思っていることは、文化が違えば大きく異なります。違うあり方が可能なら、変えられないようにみえることでも少しずつ変えられるかもしれません。大学では、人間の可能性を探り、新しいアイデアを試してみましよう。



准教授 | 情報通信技術
土本 康生 TSUCHIMOTO Yasuo

生成AIの登場により、道具としてのコンピュータの使い道が拡がりました。実現したいことを自らの力で実現できる可能性が高まったと言えます。そんな時代に求められるのは行動力。まずは挑戦、自分が目指す世界を作る一歩を踏み出そう！



准教授 | 社会学
粥川 準二 KAYUKAWA Junji

私が専門とする社会学は、社会の変化を捉えつつ、社会問題に取り組むための学問です。パンデミックは終わっても社会問題は終わっていません。“アフター・コロナ”時代の社会問題に取り組むチカラを、叡啓大学でともに育みましょう！



講師 | バイオデザイン、情報工学
松浦 康之 MATSUURA Yasuyuki

現場に入り込み様々な視点から調査し本質を理解し、解決すべき事を定義することが、社会問題を解決するイノベーション創出の第一歩です。その方法を学び、実践を通じて、難しさと楽しさを実感して、これからは活かしましょう。



准教授 | 科学技術社会論
水島 希 MIZUSHIMA Nozomi

現代の私たちの生活には、科学技術が深く浸透しています。科学や技術は日常生活だけでなく、人生観・生命観そのものにも影響を与えています。社会における科学技術のあり方について、みなさんと一緒に議論できることを楽しみにしています。



教授 | データサイエンス
森 俊樹 MORI Toshiaki

我々の身のまわりはデータや情報であふれており、インターネット等の普及でその傾向はさらに加速しています。データサイエンスやAI(Artificial Intelligence)の知識やスキルを身につけて、よりよい世界を一緒に実現しましょう。



教授 | 英米文学、英語教育、異文化理解
上杉 裕子 UESUGI Yuko

「別の言語を話すことは別の人生を生きること」ということわざがあります。英語というもうひとつの言語を学ぶことは世界への扉を開くことです。異文化間コミュニケーションの手段としての英語力を磨き、未来の世界に羽ばたきましょう！



准教授 | 哲学・倫理学
渡辺 和典 WATANABE Kazunori

情報が加速的に更新される時代において、事柄の根底、前提、可能性について自らの力で批判的に思考する能力、そして徹底して考え抜く思考の持久力を、哲学をベースに身につけてほしいと思っています。



教授 | 気象学、環境学、データサイエンス
山田 芳則 YAMADA Yoshinori

地球環境論と自然災害論、データサイエンスの講義を担当しています。地球科学の基礎を学ぶことは地球環境問題を理解する上で非常に重要です。膨大なデータから有益な情報を引き出すデータサイエンスの活用範囲は拡大していきましょう。



准教授 | 安全保障論、平和論
安富 淳 YASUTOMI Atsushi

世界に平和な社会をつくるにはどうすればよいのか—私たちの先輩たちは、この難題に取り組んできました。平和とはなにか、戦争や紛争はなぜ起こるのか、どのように予防や解決できるのか、一緒に議論しながら考えていきましょう。

My Vision

本質を捉える スキルを身につけ 社会課題の 解決に挑む

ソーシャルシステムデザイン学科 3年

柄本 矩宗 ENOMOTO Noritaka

広島県(崇徳高等学校)出身

複雑に絡まる社会課題を 修得と実践でひも解いていく

課題解決演習(PBL)は、因果関係が複雑に絡まりあっている社会課題に対して、明確に問題点や改善できる点を見える化できるように面白さがあります。問題の本質を可視化できるようになることは、自身の人生においても大きなプラスになりました。また、演習の一環で行うフィールドワークでは、それまで考えもしなかった視点や周囲の魅力にふれることができます。2年次は、クライアントの東広島市様が支援するコー



ワーキングスペースでフィールドワークをし、その場所でこそ得られる需要や活用法に新鮮な発見がありました。現在履修しているクラスでは、ユニリーバ・ジャパン様の「UMILE(ユーマイル)プロジェクト」(<https://www2.unilever.co.jp/umile/ecocp.html>)



に参加しています。企業が目標とする水平リサイクルを実現するために、この活動をどう推進し、かつ持続可能なシステムにしていくか、課題の特定に携わりながら解決の方向性を考えています。これほど社会的リアルな課題に向き合える大学は他にないと感じています。刺激的な仲間とグループワークでアイデアを共有し、思いもよらない因果関係を示す「因果ループ図」ができる喜びも貴重な経験のひとつです。

価値観と視野を広げ 社会を俯瞰できるスキルを

PBLという実践的な学びが実現している理由のひとつには、国内外の企業やNPOなど、社会で様々な活躍していた教員が多くいることが挙げられます。インターネットからは得られ

将来は個人や環境を尊重し、 人びとの心に寄り添える活動に取り組みたい

私たちは環境に対して主体的に解釈を選択できます。この事実を多くの人に知ってもらうこと。そして、観啓大学での学びを活かし、社会に恩返しすることが今の夢です。将来はNPOやNGO、さらには教育関係など、様々な分野を視野に入れつつ、社会を前向きに変えられる人財になりたいです。

Our Challenges

オリジナリティと 価値を創造し 学びの場を 自ら開拓する

観啓大学では1階に設置した、地域の方と学生との交流促進を目的としたスペース「コミュニティコモンズ」を舞台に地域と大学をつなぐ学生企画プロジェクトを順次実施しています。イベントの企画から実施まで、すべて学生が自主的に運営。地域との関わり、自分たちにできること、そこから創造する未来まで、チャレンジする精神を応援しています。

私たちが企画したのは 「EXPRESS HIROSHIMA」

ソーシャルシステムデザイン学科 2年

梶原 百恵 KAJIWARA Momoe

広島県(福山市立福山高等学校)出身



ソーシャルシステムデザイン学科 2年

前田 脩人 MAEDA Shuto

大阪府(大阪府立水都国際高等学校)出身

※2022年3月卒業時は大阪府立

音楽を介して平和を考える 新たな表現にチャレンジ

イベントの内容はどんなものですか

前田 『EXPRESS HIROSHIMA～あなたと創る「音楽」とこれからの「ヒロシマ～」』と題し、「平和」と「音楽」をテーマにしたイベントを計4回実施しました。平和について考えながら、世界にひとつだけの音楽を参加者とともに作詞作曲する内容となっています。



梶原 平和という難しく考えがちですが、もっと気軽に学んでもらい、感情ではなく現

实的に考え、行動する空間づくりが目的でした。音楽をツールとしてひとつの作品を創り上げたことは、新たな平和教育の在り方を模索する良い機会になったと考えています。

前田 歌詞をつくる上で、今回は平和について学んだことを言葉にするという作業を行いました。どんな言葉が適切なのか、各々が感じた平和とは何か、思いを洗練させ生まれた言葉には重みがあり、素敵な歌詞ができあがったと思います。

双方向の コミュニケーションを大切に

大学での学びと今回の活動に
共通点はありますか

梶原 私たちは、このイベントを1年次の秋から企画しましたが、デザイン思考・システ



ム思考やロジカルシンキングの授業を受けている時期でした。イベントで何をしたいのか、漠然とではなく具体的に考えることができました。対話はワールドカフェ方式とし、一方通行ではなく双方向のコミュニケーションを大事にできたことも、入学直後のソーシャルシステムデザイン入門や課題解決入門で得たアイデアやスキルがあったからこそだと思います。

前田 観啓大学のアクティブ・ラーニングでは、自ら何かを学ぶ姿勢が評価される側面があります。アクティブであることの良さは、自ら考え動き、得られた学びこそ本物の学修意欲につながるということ。今回のイベントで行った、平和に対する思いをぶつけ、認識し、そこから言葉を選ぶという行為はとてもアクティブで、PBLの本質にもつながっていると感じました。

ヒロシマの平和発信と 新たな芸術のあり方

在学中に挑戦したい活動、
将来の夢や目標を聞かせてください

梶原 EXPRESS HIROSHIMAは私が引き継ぎ、G7広島サミット開催中は、多様な角度から情報を発信しました。私自身、中学生時代から続けている平和活動をこれからも継続していきます。EXPRESS HIROSHIMAを基地とし、国内外で起きている様々な問題を、平和という視点で扱うとともに、未来へと向く「ヒロシマ」の平和発信ができるフィールドをつくりたいと思っています。また、英語力を磨き、将来は国際会議などの場に立ち、世界的な視野を持って社会貢献できる人財になりたいです。

前田 音楽という聴覚情報だけでなく、「体験し、協働し、制作する」一連の活動を新たな芸術の在り方として模索したいと考えています。その思いをカタチにするべく「ことのはproject」というクラブを立ち上げ、EXPRESS HIROSHIMA同様、作詞体験型ワークショップを開催できるよう準備を進めています。どんなカタチであれ、少しでも感動やきっかけを伝えられるアーティストでありたい、それが現時点での夢ですね。



My Vision

経験と自信 学びと出会いが 将来像を 明確にしていく

ソーシャルシステムデザイン学科 3年

福高 七海 FUKUTAKA Nanami

岡山県(岡山県立倉敷青陵高等学校)出身



チャレンジできる環境で やり遂げる力を培う

高校生の頃から、校外で開催された課題解決に関するプレゼンテーション、高校生外交官プログラムなど、様々なことにチャレンジしてきました。それらの経験が活かせる叡啓大学での学びは、さらに実践を伴った課題解決演習(PBL)など、物事に一歩も二歩も踏み込んだ学びのアプローチにとっても魅力を感じています。例えば、2年次のPBLのクライアントのせとうち観光推進機構様は、瀬戸内ブランドを確立しながら、地域再生と成長循環の実現



を目指しています。しかし、その上で鍵となる地域住民からの認知度が低い現状を捉えました。そこで、地域での認知度についての仮説検証を行うため、実際に、尾道市瀬戸田町に足を運び、住民の方へのインタビュー、地域の観察を中心にフィールドワークを実施しまし

た。また、1年次に、外務省が主催した国際問題プレゼンテーション・コンテストに参加した際も、単にたくさんのデータを集めて証明するのではなく、このコンテストに出ようと思った理由から再考。経済安全保障という難しいテーマでしたが、一緒に参加した友人とアイデアを共有し、ブレインストーミングを重ね、未完成ながらも私たちの考えを訴える言葉に深みを持たせる内容に仕上がりました。結果として奨励賞をいただき、貴重な経験となりました。

本来の目的を忘れず 自分なりのアンサーを探究

多くのチャレンジで得られたのは、“自分がなぜそうしたいのか”本来の目的を考えられるようになったことです。どんな社会が望ましいか、信念をもって考えることの重要性にも

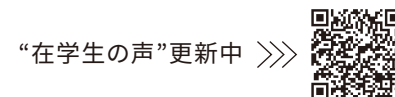
将来はフィールドキャスターとして世界を舞台に羽ばたきたい

ジャーナリストを志したきっかけは、香港の友人を通して、2019年の抗議デモを身近に感じたことでした。さらに、大学で様々な分野の課題と向き合ったことで、それらを伝えたいという思いが強くなりました。将来は世界中の問題や人々の経験や感情を、自分ごととして捉えられるような報道に携わりたいです。

気づきました。今秋にはイギリスでの交換留学が控えていますが、そこでは日本と世界のジャーナリズムについて学ぶ予定です。テレ



ビ新広島でのインターンシップや「メディア論」の授業で学んだことを活かし、イギリスのジャーナリズムのあり方について学びたいです。報道の自由度が低いと言われている日本のメディアが、本当に必要な情報を届けていくためにはどうすれば良いのか、自分なりの考えを見つけたいと思っています。



多様なキャリアデザインをサポート

4年間を通じて「社会・企業」とつながり、キャリアに向き合う教育プログラムで、多様なキャリアデザインを描く学生たちをサポートします。

キャリアデザインオフィス

キャリアデザインオフィスをハブステーションとして、キャリアメンター、叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会、起業家育成コミュニティなどの関係団体とネットワークを構築し、学生の活動や多様なキャリアデザインをサポートしています。また、専属のキャリアアドバイザーによる

キャリア相談を随時受け付け、キャリアに関する図書等の閲覧や学生が職員やキャリアメンターと談話するオープンスペース、企業とのオンライン面談用のプライベートブースを整えています。



◎卒業後のイメージ

- ① 社会課題を起点に新たな事業戦略を描く企業や公共セクター、グローバルに展開する企業、国際機関、国際NGOの戦略推進、事業部門等で、入社早々に新規事業のプロポーザルが提出できるなどの活躍
- ② 起業し、新しいシステムやサービスをグローバルとローカルで展開

コーチング

「誰一人取り残さない」をモットーに、コーチングスキルを用いて自己との対話を促す支援として、全学生へのコーチングを実施しています。コーチングスキルをもつコーチが学生一人ひとりに寄り添い、現状と将来やりたいことのギャップを可視化し、道筋をつけることを気付かせるために取り組んでいます。

イブニングラウンジ

社会の第一線で活躍している方々と学生が自由に意見交換できる場として、イブニングラウンジを設定し、学生のキャリア形成を支援します。



客員教授



客員教授
アリソン ビール
ALISON Beale
プロフィール
英国出身。オックスフォード大学日本事務所代表。国際文化交流分野でキャリアを積む。教育、文化機関で非常勤の委員、理事等。

今の世界はものすごい速さで変化しており、私たちが直面する様々な世界的課題を解決するためには創造力と情熱をもって考えることが求められます。これからより良い、より豊かな、そしてより平和な社会をつつていくために、学生の皆様には大学生活を大いに楽しみながらグローバルシティズンとしてのスキルを大学で磨いていただきたいと思います。



客員教授
藤野 英人
FUJINO Hideto
プロフィール
1966年富山県生まれ。国内・外資大手投資運用会社でファンドマネージャーを歴任後2003年レオ・キャピタルワークス創業。

これからの社会は、既存の価値観にとらわれず楽しんで新しい挑戦をする人たちが創ります。わたしたちと一緒に、しがらみのない組織で未来の価値をワクワクしながらつくっていきましょう。それが個人のしあわせにもつながるのです。



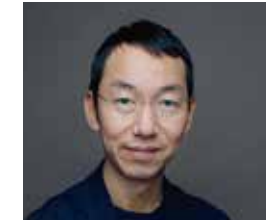
客員教授
深澤 直人
FUKASAWA Naoto
プロフィール
電子精密機器からモビリティ、家具、建築など、世界で70社以上のメジャーブランドのデザインを手掛ける。多摩美術大学教授、日本民藝館館長。

今後の教育の世界は一箇所に集まるとか同じ時間で学ぶのかといったような拘りはなくなり、さらに自分の趣味の対象を自由に学べる環境が整うに違いない。大切なのは、その教育によってどのように創発が生み出されるかだと思ふ。創造と創造が組み合わさって、予測もしない創造物が生まれるという時代に私たちは生きている。Let's make emergence(創発を起こそう)



客員教授
前野 隆司
MAENO Takashi
プロフィール
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。同大ウェルビーイングリサーチセンター長兼務。博士(工学)。

木を見て森も見るシステムデザイン・マネジメント学や幸せな社会を目指すウェルビーイング学の研究・教育を行っています。幸せな人は、生産性が高く、欠勤率が低く、ミスが少なく、健康・長寿であることが知られています。また、やりがいのあることを見つけ、多様で深い人間関係を構築している人は幸せです。幸せな学生生活と幸せな人生を歩んでください!



客員教授
山口 周
YAMAGUCHI Shu
プロフィール
独立研究者、作家、パブリックスピーカー。株式会社中川政七商店社外取締役、株式会社モバイルファクトリー社外取締役。

これまで優秀な人材の条件とされた「正解を出せる力」の価値が下がっています。これからは「良い問題」を生み出せる人こそが求められていくでしょう。皆様にはぜひ「良い問題」を生み出す力を身につけてもらいたいと願っています。

キャリアサポートについて、詳しくはこちらから >>>



ENVIRONMENT 周辺環境

まち全体がキャンパス

大学のキャンパスは15階建ての建物です。
JR広島駅から徒歩約10分と通学における利便性が高く、市街地にありながら、静かで教育・研究に適した立地環境にあります。アクセスが良く、企業など多様な主体と連携しやすいため、質の高い学修プログラムを提供することができます。

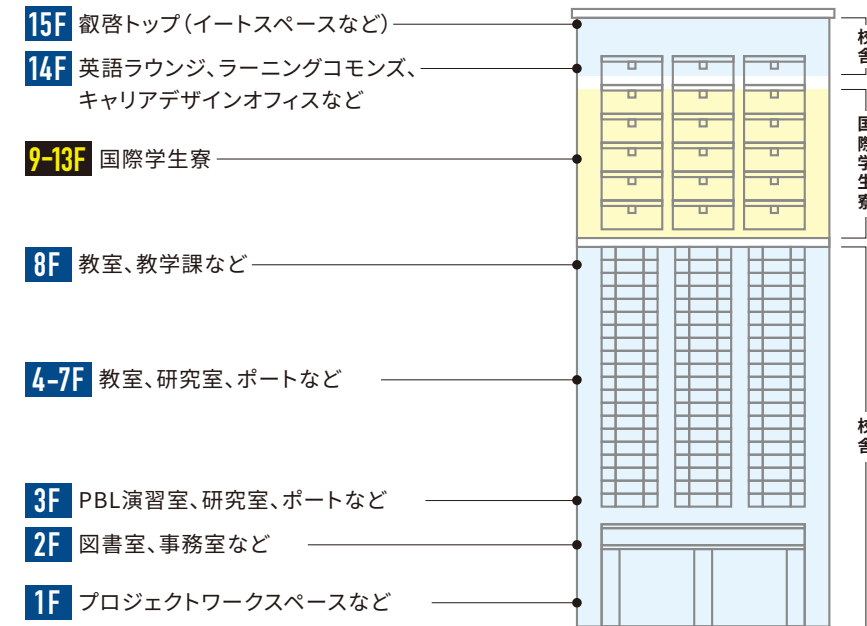


- 広島県内13の美術館・博物館および広島交響楽団のキャンパスメンバーズ制度に加入しているため、学生証を提示することで特典を受けられます。
- 県立広島大学広島キャンパスの図書館や体育館などの施設を利用できます。

周辺環境について
詳しくはこちらから

FACILITY 施設紹介

叡啓大学校舎フロア図



- 15F 叡啓トップ (イートスペースなど)
- 14F 英語ラウンジ、ラーニングcommons、キャリアデザインオフィスなど
- 9-13F 国際学生寮
- 8F 教室、教学課など
- 4-7F 教室、研究室、ポートなど
- 3F PBL演習室、研究室、ポートなど
- 2F 図書室、事務室など
- 1F プロジェクトワークスペースなど

1F プロジェクトワークスペース



叡啓大学の「顔」ともいべき空間。「新たな社会価値を創造する共創の(場)」をコンセプトとし、新しいものを生み出す創造力を刺激する空間として「ソーシャルシステムデザイン」の一端を体現しています。セミナーやワークショップをはじめとするイベントなどを開催できる「セミナーエリア」、企業や自治体関係者など、学生と地域の多様な主体との交流を図るための「コミュニケーションエリア」などを設けています。

1F コミュニティcommons



学生と地域の方との交流の場として、広く開放しています。1期生が「EIKEI PIANO PROJECT」として、ストリートピアノを設置したり、2023年は学生が企画したイベントを開催するなど、子どもから大人まで地域の多様な方々と交流を進める取り組みも行われています。

15F 叡啓トップ



窓から広島市の街の様子を一望できる広々とした空間です。一人で自習したり友人と語らう場所として最適です。天気の良い日は瀬戸内の島々が見えます。

14F 英語ラウンジ



英語のみを使用するスペースです。英語ニュースが常時流れ、海外の書籍やDVDがたくさん置いてあります。ネイティブの英語の先生たちが曜日や時間によって滞在し、授業以外の時間でも英語に触れることができます。

3-8F 教室



可動式の机やイス、ホワイトボードを備え、アクティブに学修できる環境になっています。

9-13F 徒歩0分の国際学生寮

学びと生活が一体化した国際学生寮は、留学生と日本人学生が共同生活を通じて、国際感覚を磨くことができます。管理人は配置されず、各フロアの学生レジデント・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)が中心となり、大学教職員とも連携しながら、入居者の寮生活をサポートします。自らが寮生活の改善や向上に積極的に取り組み、国際学生寮を発展させていきます。



レジデント・アシスタント (RA)

各フロアに1名ずつ配置され、担当フロアの状況を確認し、大学事務局との定期的なコミュニケーションやフロアの交流活動を行います。2LDKユニットに1人で居住しますが、ユニットスペースの一部は、他の寮生との交流活動の場として共有してもらいます。

入寮対象 叡啓大学の学生
※留学生および交換留学生を優先します。
在寮期間 最長2年間

部屋タイプ (個室面積)	ルームシェア		RA 2LDK 洋室・和室 (12.1~12.5㎡)
	1R (23.55㎡)	2LDK 洋室・和室 (12.1~12.5㎡)	
戸数	74戸	5戸	5戸
入居者数/戸	1名	2名	3名
寮費(月額)シェアタイプは1名当たりの料金	46,000円	32,500円	37,000円
共益費(月額)	約1,000円(概算) (共有フロア電気代、インターネット使用料)		

※その他、光熱費(実費)などが必要です。

施設について、詳しくはこちらから



LIFE STYLE 生活

寮生活



学生のレジデント・アシスタントが入居者をサポート 異文化交流が活発な学生自治の快適寮生活で 自主性と国際性を養う。

濱岡 千咲 HAMAOKA Chisaki 2年

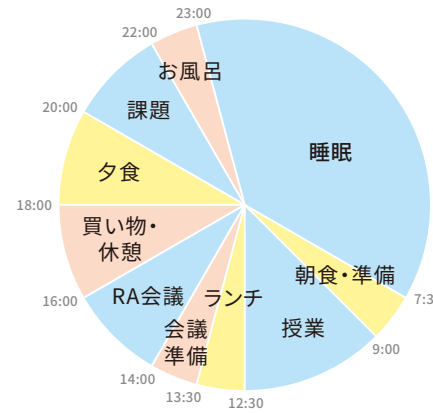
国際学生寮には、叡啓大学の学生だけでなく、県立広島大学の留学生も一緒に住んでいます。国際色豊かなので、外国の人と積極的にコミュニケーションを図りたい人におすすめです。好きな場所は、15Fの「叡啓トップ」。寮室でゆっくり過ごすプライベート時間もいいですが、晴れた日は海まで一望できる15Fからの眺めがとても素敵で

気に入っています。私は各フロアに配置されるレジデント・アシスタント(RA)として、安心かつ落ち着いた生活できる空間づくりを担っています。寮生のコミュニティ確立のためにイベントやパーティーも多く開催しているので、多様な価値観に触れられる異文化交流が好きな人は、ぜひ入寮を検討してください!

■寮生の1か月支出平均

●家賃	46,000円
●光熱費	6,500円
●食費	8,000円
●通信費	5,000円
●その他雑費	3,000円
合計	68,500円

■濱岡さんのある1日

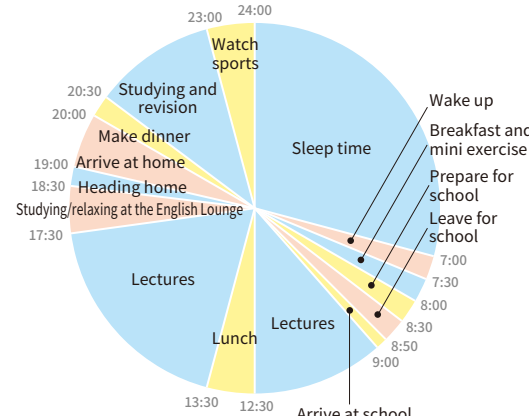


授業が17時までである日や、ミーティングが3~4つ重なっている日は、家事が後回しになりがち。気づいたときに掃除・洗濯を済ませるようにしています。

■Average Monthly Expenses when Living Alone

●Rent	26,000 Yen
●Utilities	15,000 Yen
●Food	20,000 Yen
●Communication expenses	5,000 Yen
●Other miscellaneous expenses	15,000 Yen
total	81,000 Yen

■DDEMBE Francis's Typical Day



This academic environment in which various issues are tackled through teamwork to produce creative solutions is just perfect for me. Becoming accustomed to living on my own makes everyday enjoyable.

LIVING ON OWN



Getting accustomed to living on my own improves my time management skills. I enjoy spending time with friends who share my interests and hobbies.

DDEMBE Francis, Junior

I am an exchange student from Uganda who came to Japan in order to study how to create sustainable solutions using technology for solving issues unique to Africa. I currently live about 20 minutes from the university campus. I go to school by bicycle, and even though it's a short ride, it's a favorite part of my day. Outside of my classes, I am very active in creating numerous networks of

persons who share my same hobbies and interests. I am active on-campus as part of the volunteer student staff that operates the English Lounge and outside of the university, I am also involved in the Uganda Students Association Japan. At the end of a day, I watch my favorite sports at home, so I'd like to enjoy them together with friends who are fans of the same sports.

叡啓大生のライフスタイルについて、詳しくはこちらから >>>



クラブ活動

20以上のクラブが活動しています。



Eikei Dance Club / 叡啓ダンス部
学内イベント出演や発表会を企画し、ダンスを通じて学生間をつなげることを目的としています。



Korea club Day by day / 韓国サークル "하루 하루"
韓国語を修得したり、韓国料理を作ったり、伝統を学んだりしながら、異文化交流をしています。



S'more(スモア)
大学内外を舞台とした、学生のコラボレーション機会を創出するコミュニティ型クラブです。



Coffee club / コーヒークラブ
学内で、無料でコーヒーを飲みながら、リラックスして友達や新しい出会いを作る場・空間を提供しています。



Eikei Photography Club / 叡啓写真部
知識や技術を共有するだけでなく、お互いに刺激しあい、写真の楽しさや面白さを感じながら活動しています。

Eikei Gaming Club / 叡啓ゲーム部
ゲームを楽しみながら、チームワークやコミュニケーション力を高めることを目的としています。

EIKEI スポーツクラブ
健康維持やチームワーク向上、なによりスポーツを楽しむことを第一に活動しています。

EUH Entrepreneur Club "coco-Labo" / 叡啓起業部 coco-Labo
起業家と交流したり、アイデアを共有したりしながら、各自が実現したい事業に取り組んでいます。

Lines(ラインズ)
ボランティアを通して、人と人との輪を広げ、地域に貢献するとともに、社会課題への理解を深めています。

PeKuChars(ペクチャーズ)
プレゼンやラジオ発信などを通してコミュニケーション力の向上を目指しています。

学生祭実行委員会

EUH Student Festival Executive Committee
2023年10月の学生祭開催に向けて、5月、実行委員会が立ち上がりました。

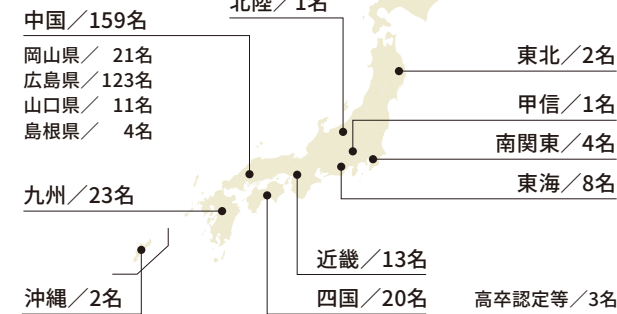


クラブ活動について、詳しくはこちらから >>>

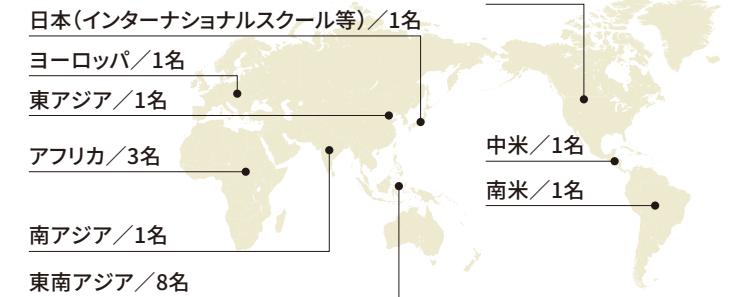


叡啓大生の出身高等学校等所在地

■国内 / 計236名



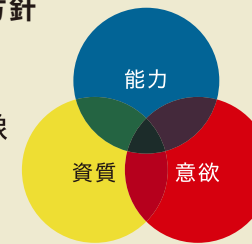
■海外 / 計19名



※2023年5月1日現在の在籍者

アドミッション・ポリシー 入学者受入れの方針

求める学生像



次のような資質・能力・意欲を持った学生を広く国内外から受け入れます。

- 基本的な学力
- 幅広い視野
- 国内外の様々な文化、歴史、社会や国際関係への強い関心と探究心
- 学ぶ意欲
- 自らの能力の向上を目指す意欲
- 社会貢献意欲
- 将来を見据え、目的意識をもって学修に取り組もうとする姿勢
- 他者と積極的にコミュニケーションを行う姿勢
- 自ら先頭に立ち、他社を巻き込んで様々な課題に取り組もうとする姿勢

入試情報 [令和6(2024)年度入学者選抜]

入試区分	一般選抜	学校推薦型選抜	総合型選抜	留学生選抜
定員	10人	20人	50人	20人

学費など [令和6(2024)年度]

区分	広島県内出身者	広島県外出身者
入学科(入学時負担)	282,000円	394,800円
授業料の年額	535,800円	

※その他、体験・実践プログラム参加費、留学費用などが別途必要です。

奨学金・授業料減免制度

制度	対象	内容
国の高等教育の修学支援新制度	日本人学生	授業料・入学科減免および給付型奨学金
日本学生支援機構貸与奨学金	日本人学生	第一種奨学金貸与(無利子) 第二種奨学金貸与(有利子)
大学独自の授業料減免制度	外国人学生	授業料半額減免
	日本人学生 (生計維持者の死亡、傷病などによる急変があった全学生)	授業料の全額または半額減免

※今後、変更が生じる可能性があります。いずれも採用にあたっては、家計基準、成績基準などを満たす必要があります。

入学者選抜に関するお問い合わせ

教学課入試係
TEL.082-225-6224
E-mail:admissions@eikei.ac.jp

入試について
詳しくはこちらから >>>





広島県公立大学法人

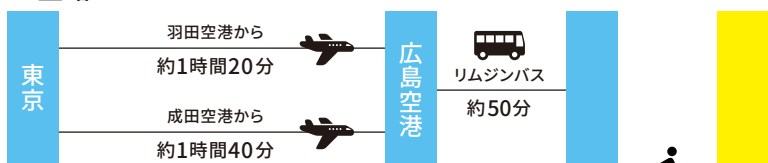
叡啓大学

EIKEI UNIVERSITY OF HIROSHIMA

<https://www.eikei.ac.jp/>
TEL:082-225-6201(代表)
E-mail:publicrelations@eikei.ac.jp
〒730-0016 広島市中区鞆町1-5



■ 空路



■ 陸路(新幹線)

